

ごあいさつ



代表取締役会長

山口悟郎

代表取締役社長

谷本秀夫

平素は京セラグループに対しまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

京セラは1959年の創業以来、「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること」という経営理念のもと、事業を展開してきました。

2023年度は、主要製品の需要低迷の影響などにより、前年度に比べ減収減益となりました。京セラグループを取り巻く環境は厳しい状況となりましたが、事業の選択と集中および積極的な投資を進めるとともに、人事戦略や資本戦略の推進、ならびにコーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでまいりました。

2024年度の後半以降には半導体関連や情報通信関連市場の市況回復が見込まれており、主要製品の需要拡大を予想しています。私たちはこの事業機会を着実に捉え、さらなる事業の成長と経営基盤の強化を図ってまいります。

京セラグループが今後、どのように事業活動を通じて社会課題の解決に取り組み、持続的に企業価値の向上と社会への貢献を果たしていくのかステークホルダーの皆様にお伝えするために、「統合報告書」を発行しています。私たちが成長発展するうえでの基本となる考え方や取り組み、さらにはそれらが社会にもたらす多くの可能性を示すことで、皆様との価値共有を図り、一層の企業価値の向上を目指します。本報告書が京セラグループに対するご理解の一助となれば幸いです。

社是・経営理念・経営思想

社是

敬天愛人

敬天愛人

常に公明正大 謙虚な心で 仕事にあたり
天を敬い 人を愛し 仕事を愛し 会社を愛し 国を愛する心

経営理念 ▶ P.4

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、
人類、社会の進歩発展に貢献すること。

経営思想 ▶ P.5

社会との共生。世界との共生。自然との共生。
共に生きる（LIVING TOGETHER）ことをすべての
企業活動の基本に置き、豊かな調和をめざす。

京セラの思い



創業者
稲盛 和夫

1959年、京セラは創業者の稲盛和夫が開発したファインセラミック技術をベースに、資金も信用も実績もない小さな町工場から出発しました。

世界トップクラスのセラミックメーカーに育て上げ、多角化した事業を展開するに至った経営の基軸は、「人間として正しいことを正しいままに貫く」「世のため、人のために尽くす」こと。京セラグループは、創業者がその生涯をかけて貫いたチャレンジ精神と利他の姿勢を受け継ぎ、常に新たな挑戦を続け、事業を通じて誰もが豊かで幸福に生きられる、よりよい社会の実現に貢献していきます。

一方で、人類が今後も発展を続けながら生きていくためには、「共生」という思想が必要です。それは、地球上に存在する生きとし生けるすべてのものが「共に生きていく」という考え方です。地球上のあらゆる生物は相互に依存し合って生きています。それは人間の社会でも同じことです。互いに心を合わせ、助け合い、分かち合う関係を築き、共に発展を遂げていく。そのような考え方で経営を進めていくことが、これからの社会では求められています。

京セラグループは、今後もこの「共生の思想」にもとづき、人類の豊かな調和をめざした企業活動に努めてまいります。

経営理念

「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、 人類、社会の進歩発展に貢献すること」

この経営理念と「京セラフィロソフィ」にもとづき、
社員全員がお客様と社会に寄り添う活動を続けています。

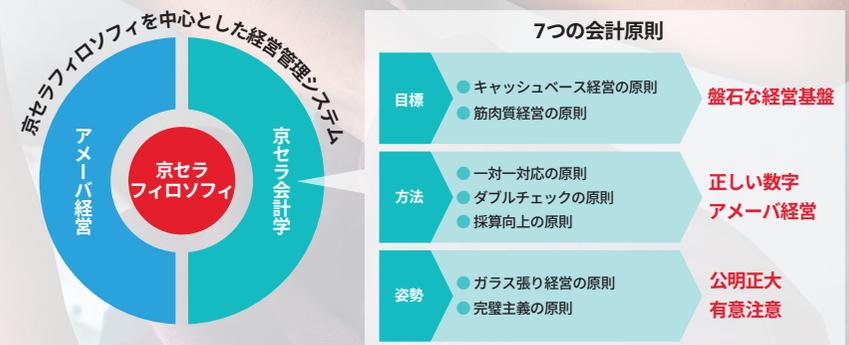
京セラグループの経営の原点は、創業者である稲盛和夫が掲げた経営理念にあります。
社員一人ひとりがその言葉を常に心に刻みお客様や社会のニーズをいち早く捉えながら、
新しい製品やサービスを提供するために果敢にチャレンジを続けています。

京セラグループは、以下の4つの要素からなる京セラフィロソフィを全社員で共有しています。

- 会社の規範となるべき規則・約束事
- 企業が目指すべき目的・目標を達成するために必要な考え方
- 企業に素晴らしい社格を与える
- 人間として正しい生き方、あるべき姿

このフィロソフィにもとづき、私たちは創業以来、多様な人材が主体的に行動し、いきいきと活躍できる全員参加経営をめざしてきました。そして、会社の組織をアメーバと呼ぶ小集団に分けた「アメーバ経営」と、各市場に直結した独立採算制により着実に成長を遂げてきました。さらに、一人ひとりが経営に携わることで、働きがいや達成感を得るとともに、チームとしての力を高め、社会のよりよい未来への貢献をめざしています。加えて、多様な人材が活躍できる職場づくりを推進することで、すべての従業員が自分らしく輝けること、そして、多様な可能性を互いに活かし合うことを実現し、その心豊かな職場環境が、私たちの全員参加経営の根幹をなしています。

経営理念を実現する2つのシステム



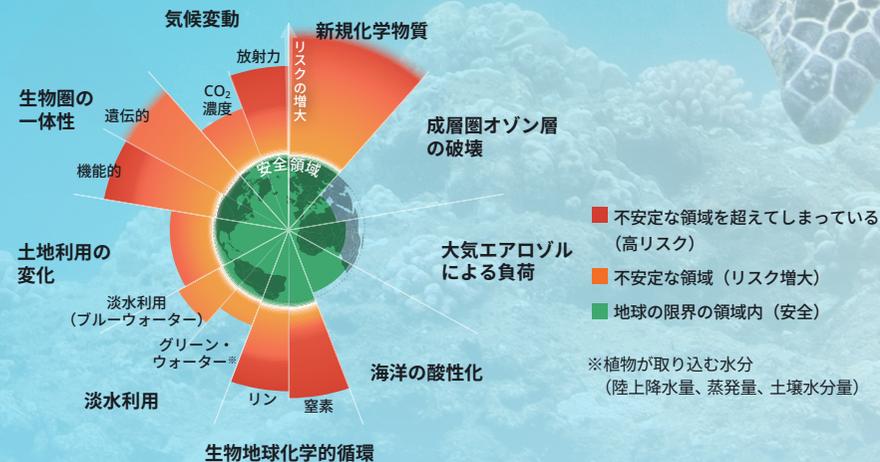
経営思想

社会との共生。世界との共生。自然との共生。 共に生きる(LIVING TOGETHER)ことを すべての企業活動の基本に置き、 豊かな調和をめざす。

京セラグループは“共生”という概念を強く意識して企業活動を進めており、これは私たちのサステナビリティ活動に対する基本思想にもなっています。

私たちが企業活動を行い、私たちの仲間が暮らす地球の現状を9つの視点から観察しているプラネタリー・バウンダリー。その多くの項目で、既に不可逆的な変化が起こっているといわれています。創業者の稲盛和夫が定めた、「共に生きる」という経営思想は、「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「ネイチャーポジティブ」といった、社会が目指す方向と合致するもので、京セラグループのサステナビリティに対する基本思想として受け継がれています。私たち京セラは、これまで、そしてこれからも、これらに最大限配慮して企業活動を行うと同時に、私たちの技術で一つでも多くの課題を解決できるよう、新たな事業の創出に取り組んでまいります。

プラネタリー・バウンダリーの考え方で表現された現在の地球の状況



資料 : Azote for Stockholm Resilience Centre, based on analysis in Richardson et al 2023

成長の軌跡

最先端技術と製品の開発によって
新たな領域への挑戦を続けています。

京セラの歴史は、1959年のブラウン管テレビ向け絶縁部品「U字ケルシマ」から始まりました。ファインセラミック技術を応用展開することで数々の製品開発に成功し、新たな市場を開拓し続けています。今後もグループシナジーの追求と共創・協業により京セラの総合力を発揮し、新市場・新事業の創出に取り組みます。

売上高の推移

技術の水平展開

事業の多角化
M&Aによる事業領域の拡大

グローバル市場での事業拡大

付加価値の創造
新たな事業モデルの構築

1960

1959
「京都セラミック株式会社」
として創業

1969
米国現地法人
KYOCERA International, Inc.
を設立

1970

1971
ドイツにFeldmühle社と合弁会社を
設立(現: KYOCERA Europe GmbH)

1975
ジャパン・ソーラー・エナジー(株)を
設立し、太陽電池の開発を開始

1979
サイバネット工業(株)に資本参加

1980

1984
第二電電企画(株)を設立
(現: KDDI(株))

1989
エルコグループが京セラグループに
参加

1990

1990
AVXグループが京セラグループに
参加

1995
京セラコミュニケーションシステム
(株)を設立

1999
米国Qualcommから携帯電話事業
を承継

2000

2000
三田工業(株)が京セラグループ
に参加

2003
●キンセキ(株)を完全子会社化
●京セラSLCテクノロジー(株)を
設立

2010

2010
ソニーモバイルディスプレイ(株)野洲事
業所のTFT液晶ディスプレイ事業を承継

2011
ベトナムにKYOCERA Vietnam
Management Company Limitedを設立

2018
リョービ(株)の電動工具事業を承継し、
京セラインダストリアルツールズ(株)
を設立

2020

2020
AVX Corporationを完全子会社化

2021
米国Soraa Laser Diode, Inc.が
京セラグループに参加

Introduction

価値創造戦略

経営基盤

コーポレート・ガバナンス

コア
コンポーネント

2兆円
(2024/3)

電子部品

ソリューション

新規事業

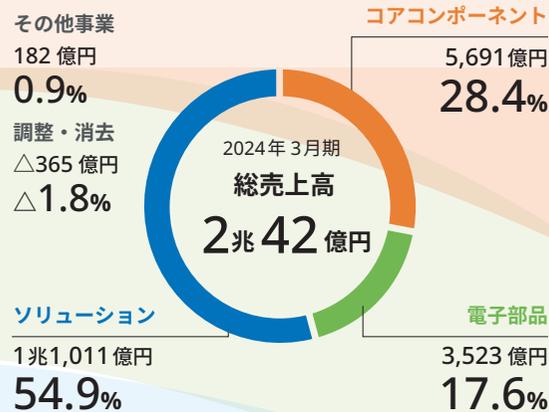


- U字ケルシマ
- サブストレート
- セラミック多層パッケージ
- 宝飾品
- デンタルインプラント
- 人工関節
- セラミックキッチン用品
- 半導体製造装置用ファインセラミック部品
- セラミックグローブプラグ
- タンタルコンデンサ
- コネクタ
- 水晶デバイス
- 多結晶シリコン太陽電池
- 積層セラミックチップコンデンサ
- SAWデバイス
- セラミックグローブプラグ
- サーマルプリントヘッド
- プリンター
- 自社製携帯電話第1号機「HP-111」
- 通信エンジニアリング
- メガソーラー
- 住宅用太陽光発電システム
- インクジェットプリントヘッド
- ディスプレイ
- LED照明
- 積層型ピエゾ素子
- 車載カメラモジュール
- 車載カメラレンズ
- ECU基板
- 有機パッケージ
- CT用部品
- 封止材
- パワー半導体
- 車載用センサ&コントロール
- 電気二重層コンデンサ
- ポリマータンタルコンデンサ
- アンテナ
- スマートフォンのHEMS
- スマートフォンのIoTネットワーク
- レーザーダイオードモジュール
- 空圧・電動工具
- 商用インクジェットプリンター
- sigfox
- IoTネットワーク
- 擦染インクジェットプリンター
- 京セラロボティクスサービス
- SOFC(固体酸化物形燃料電池)セルスタック
- 椎骨製品
- クレイ型蓄電池
- SOFCシステム
- 商用インクジェットプリンター
- 擦染インクジェットプリンター
- LTE Category 4対応デバイス

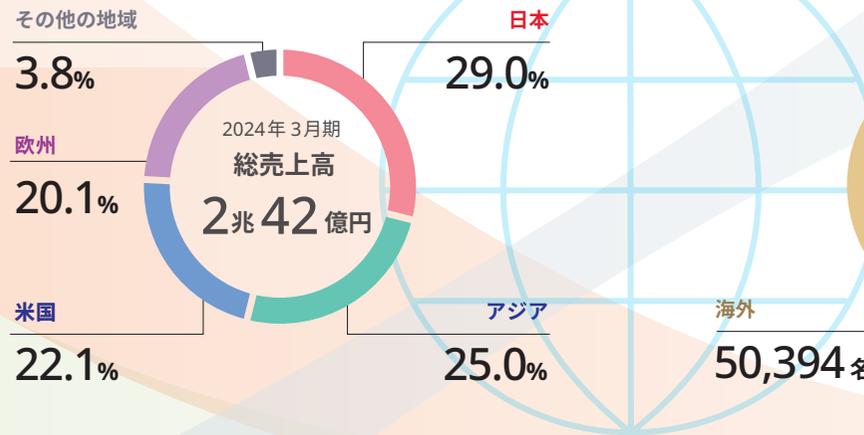
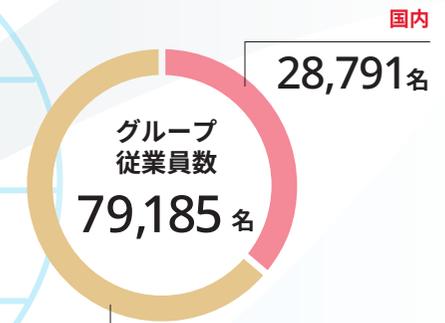
At a Glance

—京セラグループの“いま”—

セグメント別売上高比率



地域別売上高比率

グループ従業員数^{※1}

税引前利益



1,361億円

1株当たり
当期純利益

71.6円

育児休業取得率^{※2,3}
(男女別)

30.7%



100%

GHG排出量
(Scope1,2^{※4})799千t-CO₂GHG排出量
(Scope1,2,3^{※5})4,675千t-CO₂女性取締役^{※2, ※6}
比率 (2名/10名)社外取締役^{※2, ※6}
比率 (4名/10名)女性管理職^{※2}
比率 (161名/3,054名)

※1 持分法適用子会社、持分法適用関連会社は除く

※2 京セラ株式会社

※3 期間中に育休などを利用した男性従業員の数/期間中に配偶者が出産した男性従業員の数
期間中に育休などを利用した女性従業員の数/期間中に出産した女性従業員の数

※4 Scope1: 燃料使用に伴う直接排出

Scope2: 外部から購入する電力や熱の使用に伴う間接排出

※5 Scope3: Scope1,2以外の間接排出(原料調達、輸送、使用、廃棄、従業員の通勤、出張など)

※6 2024年6月25日現在